

巻之四

第七章：智徳の行わるべき時代と場所を論ず

P165 ■なぜ、事物に適した時代と場所を論じることが必要なのか。

事物の得失、便不便を見極めて適切に用いるため。陸に便利な車を、海に使っても便利とはならない。戦争は悪事だけれども、敵に対しては戦わざるを得ない。どんな事物にも一長一短はある。だから、適当な時と場所を見極めて進まなければならないのである。

P166 「もちろん、時機を見極めることはきわめて難しい。それは一瞬を争うものだからである。いわゆる「時来れり」といったときには、多くは本当の時機に遅れている時である。ご飯を炊かないで、空腹になったときに「時来たれり」といっても遅い。また、同様に場所を見極めることはとても難しい。なぜなら、場所は類似するものが多いからである。馬と鹿が似ているからといって、馬の飼い方を鹿に当てはめては鹿をだめにするだけである。

ここで福沢がやりたいのは、ただ状況認識の重要性を主張するだけではなく、文明社会を実現しようとする今・ここにおいては、本質的に何が必要なのかを論じること。そのために、まずは野蠻の状態について必要なものは何だったのかを見ていく。

■智徳が行われる時代について

P167 徳義が行われるのは、野蠻の時代である。ここには智恵が働く余地はない。人々は天災や暴政が起こらないようにただ祈り、起こればただ恐れる。政治においては、「父母と教師と鬼神」を兼ねた君主の支配に服する。法律があっても、智力がなく、その法律の趣旨を理解できないために従うこともできない。

P172 それに対し、智恵の力が発揮されるのが、文明の時代である。疑い、探求し、観察し、そして工夫をめぐらす智力が、自然の力を制御し、物を発明し造り、天地の敵をなくし、天をも支配することを可能にする。人々は、何かに恐怖することがなくなるので、それに崇拜することもなくなる。つまり、精神の自由を得るのである。理屈で暴拳を制する勢いがつけば、身体の自由も得ることができる。政治において政府とは、世の中の悪をとどめるためではなく、ただ物事の順序を保って時間を節約し、無益な苦勞を少なくするためだけに設けられるものである。

「福沢を人智によるこの自然征服劇のただの称賛者にしないのは、社会的な暴威からの自由もまたこの人智の発展に見ていたからである。」(子安宣邦「福沢諭吉『文明論之概略』精読」P204⑧)「自然の暴威から人間を解放した智力は人為の暴威からの自由をも人間にもたらすのである。このことの認識が福沢を文明に向けての日本の社会変革の先駆者たらしめているのである。」(同 P205⑬)

「……福沢の記述はルソーの『社会契約論』を思い起こさせるものとなる。ルソーは市民という契約を構成する自立的な人間主体を前提にして自然的社会から契約的な社会への転換を説いていった。福沢もまたここで智力によって一身の自由と独立をえた人民を前提にすることで可能な政治社会を、政府と人民との関係において説いていく。」（同 P206②）

■智徳が行われる場所について

P178 徳義が行われるべき場所は、家族の中だけである。

反論 1. 主従関係にも徳義があって、君主のために命を懸ける家臣がいるではないか。

P180 それは、「君主を守ることで自分の立場を守る」とか、「時代の気風」だとかいったものが原因で、徳義に根本の原因があるわけではない。

反論 2. 国が貧民に救済を施すことは、徳儀が行われている証拠ではないか。

P182 貧民救済については論争も多いが、施主は、ただ徳儀の心を私に慰めているだけである。また、施しを受けるにつれて貧民はこれが当然だと思うようになり、施しが少なくなるとかえって施主を恨むことがある。だから、基本的に徳義は家族の外に広く施してはならないことには変わりない。結局、恵与に関しては、これを受けるべき人の有様と人物とを正しく見極めて、自分からその人に接し、個人的に物を与える以外に方法はないだろう。

智恵（規則、法律）が行われる場所は、近代社会である。

P186 家族関係を一步出れば、そこは徳義の行われる場所ではない。人の心はかくも賤しく、規則はかくも無情であるが、それが現実である。しかし、規則が今の世界の最善をつくっているのである。何のために規則があるかといえば、善人が善をなすことを保護するためである。規則という物の外形を嫌って、それで得られる実際の機能を捨てることは、智者がしてはならないことである。

P187 規則に頼らずに、感情を主にし、徳で太平をなそうとしていた昔の時代は羨ましく思えるけれども、実はこの時代に規則がなかったのは、それを嫌っていたからではなく、規則を用いる場所がなかったからである。これに対して、人智が次第に発生して、世の中の事務もまた次第に多くなれば、規則もそれにしたがって多くならざるをえない。

P188 時代が移るのにしたがって人智が発生するのは、子供が大人になるようなものである。大人に対して、竹馬で喜ばせ、怪談で脅かすのは、智徳の行うべき時代と場所を誤って、家を弱くし、災いを招くだけである。

P190 だから、今の時代においては、自然のことも、人間のことも、その性質と働きをよく研究して、一定の法則を見出し、その性質と働きにしたがってそれを制御する方法を得ていくべきである。法律・規則を密にするとともに、世界は進歩する。